

## 受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

<p style="text-align: center;"><b>平成25年度 国土交通大臣賞</b> 「事業所・地方公共団体等」分野 <b>受賞</b></p>	受賞者名
	鹿島建設株式会社 東京建築支店  (仮称) 晴海二丁目マンション C1 街区新築工事
	所在地
	東京都中央区
	受賞テーマ
	10 年間にわたり活動する継続型職長会『愛幸桧』と元請が一体となった 3R 運動の推進
<p>1. 活動継続 あり</p> <p>受賞当時の現場所長が、その後、管理部門にて建築部長を歴任。管下の現場に「愛幸桧」活動を広める事となった。管下現場は、千代田区超高層 SH<sup>*</sup>ビル(延べ床 245,000 m<sup>2</sup> 地下 4 階地上 38 階)、中央区超高層 N2<sup>*</sup>ビル(延べ床 148,000 m<sup>2</sup> 地下 4 階地上 32 階)、中央区超高層 M3<sup>*</sup>ビル(延べ床 167,000 m<sup>2</sup> 地下 3 階地上 26 階)、港区超高級 R4<sup>*</sup>マンションH(延べ床 8,200 m<sup>2</sup> 地下 1 階地上 7 階)という、社内を代表する現場であり、総述べ床面積は 55 万 m<sup>2</sup>にも及ぶもので、平均作業員数も、4,000 人/日を超える都内 4 大現場である。愛幸桧の初代所長を、現場の、また人生の先輩と慕うメンバーが一体となり、4 現場の所長を中心とした活動基盤を構築したうえで活動を継続。環境への取組のみならず、あらゆる現場運営に対する情報を共有した。初代所長の退社に伴い、「愛幸桧」の名前は消えたが、活動は個別に継続している。</p> <p>※ いずれも社内略称。</p>	
<p>2. 活動の広がり あり</p> <p>都内 4 現場にて、愛幸桧の精神を継承した活動が進められた。具体的には、2 ヶ月に 1 回の愛幸桧全体会議。年 1 回の愛幸桧総会である。愛幸桧全体会議では、変化する社会情勢や現場環境に対応すべく協力会社書式である愛幸桧協力会と現場所長及び社員が、「総述べ床 55 万 m<sup>2</sup>という規模に対し、どのような 3R 活動が効果をもたらすのか」について、積極的に議論。現場の工程進捗ごとに併せて、他現場の仮設材や養生材の効果的転用を図ったり、職長及びサブ職長による相互現場巡視・意見交換会などを行う事で、個別現場の枠を超えた活動を展開した。</p>	
<p>3. 活動の進化 あり</p> <p>弊社における代表現場での活動を進めながら、継続型職長会の長所を十分に生かした活動を、それぞれの現場で独自に展開した。</p> <p>なお、その後の他の表彰や外部認定取得等は無い。</p>	
<p>4. 今後の計画</p> <p>港区 A5<sup>*</sup>計画(延べ床 20,000 m<sup>2</sup> 地下 2 階地上 22 階)では、愛幸桧活動の中心人物であった工事課長が、初所長を拝命。当初、愛幸桧を立ち上げた直系人物による、「2 世代目の愛幸桧活動」が、2017 年 9 月より開始される。今までの活動を反映しながら、より次世代型の活動が展開されるものと考えている。</p> <p>※ 社内略称。</p>	
<p>5. 特記事項</p> <p>2018 年～2020 年にかけて都内では超大型工事が集中することで、工程逼迫や工事遅延などが想定されている。そのような状況下では、往々にして 3R 活動が疎かになりがちになる。このような時にこそ、10 年以上にわたり培ってきた「愛幸桧」の活動精神を、それぞれの現場運営全般に行き渡らせることが極めて効果的であると考えている。</p> <p>愛幸桧で実施した活動(次頁に事例紹介)を、今後様々な現場で展開していきたいと考えている。</p>	



都内M3現場における4R運動



都内M3現場における分別リスト

## 愛幸絵

**御守シール運用方法**  
下記の6現場に入場した場合、該当現場の各所長の顔写真を番号のところに貼り、どこの現場で作業をしているかの識別を行います！

- K新築工事                    ■ Mビル建物解体工事
- SH新築工事                ■ N2再開発計画工事
- M3新築工事                ■ R4計画工事


入場から1週間経ったら、赤いシールを剥がしてください！

愛幸絵	
④	①
御守	②
⑤	③
⑥	③
年月日	

➔

愛幸絵	
④	①
御守	②
⑤	③
⑥	③
年月日	

御守シールはヘルメット後部の中央に貼ってください！



6現場共同の愛幸絵「御守りシール」

\*それぞれの現場で様々な活動を展開した。

## 【表彰概要】

今から約10年前。初所長として赤坂のオフィスビルの現場を始めるにあたり、同工事の現場所長は考えた。

「建築現場は、着工後工事を進めて行く中で、素晴らしい人間関係や仲間意識が生まれ、それは非常に高いレベルで環境を守ることにに対する活動や、安全・品質確保などといった活動も積極的に行われる。しかし、いざその現場が終了すると、職長たちがバラバラになってしまい、せっかく100%創り上げられた組織も次の現場では、またゼロからスタートしなければならない。単品単一現地生産という建設現場における宿命ではあるが、何とか職長会を継続していくことで、せめて70%や80%から、次の新しい現場を始められるような仕組みを創り込む事は出来ないだろうか？」

現場を運営するのは元請であり、元請の明確な指示のもとに現場は生産活動を行うが、その現場自体は、個々の職人がさまざまな成果物を創り上げて行く。その職人の長である職長の集まりこそが、現場運営を最も大きく左右する組織であり、その組織＝職長会を、現場が変わっても有機的に継続させることを目指し、継続型職長会となる、「愛幸会」（あいこうかい）を立ち上げ、この組織が中心となり次世代に引き継ぐ地球の環境を共に守っていく活動を開始した。

「人生明るく 人に優しく 心愛ふかく 共に頑張ろう」を、スローガンとして、愛幸会は、2002年の12月に発足した。それから今日に至る愛幸会施工現場は以下のとおりである。

愛幸会	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	11年目	12年目
2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
	28.18kg/m <sup>2</sup>											
	赤坂オフィスビル 延床19,734m <sup>2</sup>											
				8.43kg/m <sup>2</sup>								
				赤坂オフィス+住宅90戸 延床33,517m <sup>2</sup>								
					2.46kg/m <sup>2</sup>							
					豊洲マンション 1,064戸 延床126,619m <sup>2</sup>							
							発生無					
							晴海基盤整備工事（土壌対策工事）					
								0.38kg/m <sup>2</sup> (出来高75%時)				
								晴海マンション 883戸 延床116,590m <sup>2</sup>				

凡例：数字は混廃発生原単位  
= kg/延床m<sup>2</sup>

参考：愛幸会延労働時間  
約650万時間

愛幸会が発足した際、まだ建設現場におけるゼロエミ活動があまり一般的ではない中、「これからの建設現場は、いかに環境との関係を持ち地球への負荷を減らしながら工事を進めて行くか？」それには、最先端作業員に至るまでの強いメッセージ性と共感を得ることが重要であり現場運営の根幹として環境を捉えることに主眼を置きゼロエミ委員を設けた。

これは、ゼロエミッション導入時の学習から、分別の確認、最先端作業員への指導をはじめとする環境に関する管理や活動の推進を最大の目的とした。活動を複数現場にわたり継続することで現場全体での知識の輪が、どんどんと広がるとともに、後半のマンション新築工事の二現場では、千戸近い集合住宅特有の問題点を抽出し、早期の段階から解決に向けた仕組みを、愛幸会と共に創り込んでいくことにより、工事出来高75%時点で混廃発生原単位 0.38kg/m<sup>2</sup>。

この状況で推定すると、竣工時点では概ね0.70kg/m<sup>2</sup>以下になると考えられ、驚異的な成果を上げることが出来ると確信している。



おそろいの愛幸会トレーナーで記念写真！